



出荷を前にイチジク目合わせ会

JA江田島アグリセンターは8月20日に同センターで、21日には同鹿川支店でイチジク「蓬萊柿」の出荷目合わせ会を開きました。出荷組合員が参加し、収穫適期の判断方法やパック詰め・箱詰めなどを現物で確認しました。

目合わせ会ではJA担当者やJA広島果実連(株)の糸曾尋人技師が生産者の質問に答えながら、サンプルを基に重量規格や外観品位、着色基準などの順守を呼びかけ、かん水、施肥などについて説明しました。

出荷されたイチジクは主に広島市



▲昨年比3割増へイチジク「蓬萊柿」目合わせ会

の卸売市場に出荷されるほか、JAふれあい市呉店、江田島市観光協会が運営する「えたじまーれ」でも販売しています。

「こだわりいしじ」マルチ被覆を園地調査

JA蒲刈アグリセンターは8月17日、同JAのくれ選果場が出荷する「こだわりいしじ」のマルチ被覆状況の確認と生育状況調査を行いました。こだわりいしじの出荷部会蒲刈支部部会員の園地20カ所を調査し、6月の台風による風スレ果や梅雨明け後の猛暑・かんばつによる日焼け症状が一部園地で見られたものの、巡回したすべての園地で良好と判断しました。

同センターの富田卓也センター長は「こだわりの詰まった逸品を消費者の皆さまにお届けできるよう、今後ますますの摘果や防除の徹底を部



▲シートマルチと生育状況を確認する 富田センター長(左)とJA広島果実連(株)西村技師(右)

会員に呼びかけていく」と意気込みました。

JAでキャリア・スタート・ウィーク 呉市立蒲刈中学校

JA蒲刈支店は8月18〜20日まで、呉市が取り組む「呉市キャリア・スタート・ウィーク」に協力し、呉市立蒲刈中学校2年生、北林旺樹さんを受け入れました。キャリア・スタート・ウィークは地元企業などの職場で働くことで地域の人々と接し、働く大切さや意義を学ぶことを目的に、職場体験学習を行っています。

北林さんは、呉市蒲刈町にある同下島店、大浦店、移動購買車で品出しや接客などの体験を経て「お客さんから見えない所でも、職員の皆さんが働いているこ



▲移動購買車で商品を手渡す北林さん

とが分かり、すごいと思った」と話しました。

毎月第1土曜日は産直市の日

JAふれあい市呉店では9月5日、産直市の日として野菜の詰め放題を行いました。同店では、毎月第1土曜日を「産直市の日」として各種イベントを行っています。地元の新鮮野菜・果物・生花のほか、Aコープ商品や鮮魚、総菜も取り扱っています。入荷状況やイベントの情報をチラシの他、同店のLINEやインスタグラムでもお知らせしていますので、友だち追加、フォローをお願いします。



▲LINE



▲Instagram





なるほど え~のう! 営農情報

落葉果樹

イチジク

採収

採収も終盤となります。
秋の深まりとともに気温も下がるため、小玉果や未熟な果実が増えてきます。

今年の採収を終えたあとも、果実が樹上に残っていると思います。

今年は5〜6月の降雨が多かったため、過湿傾向の園地では病気が発生しています。

樹上に残った果実をそのまま放置すると、翌年の病害虫の発生原因となるので、可能な限りすべて摘果し園外に持ち出して処分するように心掛けてください。

間伐

密植園では、作業性や風通しが悪く、また日照不足となることから、

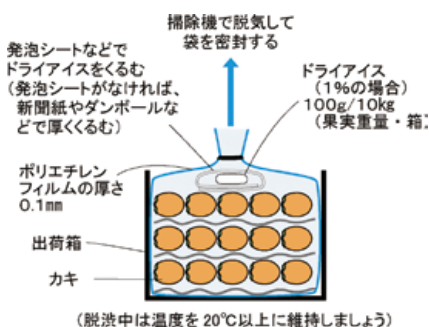


図1 ドライアイスによる西条柿の脱渋
(他品種で渋抜けの悪い祇園坊などは、ドライアイスの量を2〜3倍にする)

カキ

脱渋処理

渋柿の脱渋の方法で、ドライアイス法とアルコール法があります。

図1のようにポリ袋へ果実を並べます。脱渋期間は20℃の温度条件で西条柿は3〜4日、祇園坊は、一週間程度です。

着色不良や病害虫の発生など、品質低下を招きやすくなります。

せん定で樹を切り詰めようとする、強せん定となり、勢いの強い枝が多く発生し、果実肥大の低下や熟期の遅れ着色不良などで品質が低下してしまいます。

葉があるうちに園地の混み具合をみて、密植になっていたら間伐を行いましょう。

イチジクは、他の品目と比べ樹冠が大きくなりやすいです。

植栽間隔は広くとるよう心掛けましょう。

元肥の施用

ドライアイスの量は果実重の1%を目安とします。

アルコール脱渋の場合はカキ18kgに対して35%のアルコールが180cc必要となります。

果実の入れ方や処理期間などについては、ドライアイス法と同じです。

元肥は葉にチッ素を供給し、翌年の貯蔵養分を蓄える働きがあります。

施用時期は、10月(気温が高く葉のある時期)に施用するのが重要となります。

落葉後に施用しても吸収されないの遅れないように注意しましょう。

ただし、強勢な芽が多く出ている場合や、葉が大きすぎる樹へは施用を控えてください。

モモ

元肥

夏季の葉の大きさや葉色、徒長枝(勢いの強い枝)の発生本数などで、元肥の施用数を調整します。

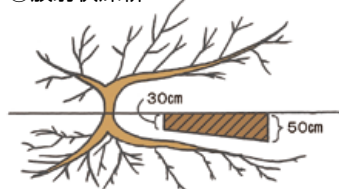
樹勢の強い場合は施用量を少し減らしましょう。

施肥時期は、カキ同様に地温の高い10月中に肥料を施用しましょう。

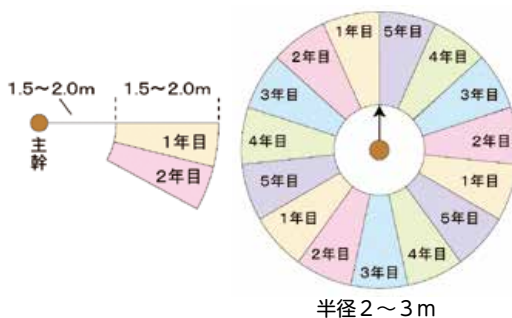
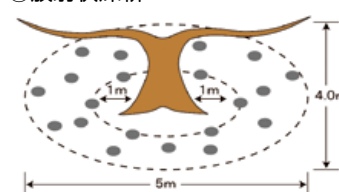
土壌改良

モモは他の果樹に比べ浅根性で成長が早く、成園に早くなります。細根が少ないとすぐに樹勢が弱つ

①放射状深耕



②放射状深耕



穴の大きさ…直径20〜30cm
穴の数…15〜20 (1mに1穴)
穴の深さ…30〜40cm

図2 土壌改良の方法(「因伯の果樹」より)

てしまいます。特にマサ土(花崗岩土壌)は、水はけがよいのですが、乾燥しやすいため、樹勢が弱ると、若樹であっても幹からゼリー状の物質が発生することがあります。

土壌改良により細根量を多く保つことが重要となります。(図2)

また、耐水性にも弱いいため、水はけが極端に悪い園地では、明きよなどの排水対策を行ったうえで土壌改良を行うのがよいです。

■キウイフルーツ

▽かん水

乾燥が続く場合は、葉が傷み落葉することがあります。

引き続き、適度な土壤水分を保ちましょう。

■ブドウ

▽縮伐

枝を切るのは、冬の作業と思いますが、落葉後は貯蔵養分を貯めきってしまうため、春先の地上部と根のバランスが悪くなり発芽にバラツキが起こりやすくなります。

成木を、太い枝単位で切り縮める時期は、収穫直後が適期となります。

□一言

今年の秋の気温も、平年より高くなると予想されています。みなさんも天候に振り回されバテ気味となっていると思われるかもしれませんが、植物も疲れ切っています。植物も、疲れを回復させるために栄養補給(ケルパック072などの葉面散布剤の散布)など様々な取り組みを行いましょう。

家庭菜園

暑さが落ち着き、秋らしい過ごしやすい季節になりました。10月は、ダイコンやカブ、ホウレンソウなどの種まきに加え、ハクサイ、キャベツなどの管理、ニンニクの植え付けなど、秋冬野菜の栽培が本格的になる時期です。一方で、気温の低下とともに野菜の生育も徐々にゆっくりになります。秋は病害虫の発生にも注意しながら、冬に向けた準備をしていきましょう。

○ニンニクの植え付け

ニンニクは、10



月ごろが植え付けの時期です。ニンニクには大きく分けて、早生性の暖地系と暖地系よりも低温要求量が高い寒地系があります。植え付ける時は、種球を1片ずつに分け、一晩水につけ、芽が出る方を上にして植えます。深さは土の上から5〜7cm程度を目安にします。

ニンニクは浅根性で土壤の乾燥に弱いので、玉ねぎのように黒マルチを張り(株間15cm)、植え付け後は土が乾燥しすぎないように管理します。冬の間は地上部の生育が緩やかになります。春になると再び生育

が進みます。

追肥は11月下旬〜12月、2月下旬〜3月に与えて、6月中下旬ごろに収穫します。

施肥(1㎡あたり)・・・完熟堆肥 2〜3kg、有機石灰 100〜150g、元肥(8-8-8の場合) 100〜150g、追肥(8-8-8の場合) 30〜50gを2回。

●アブラナ科野菜は害虫をこまめにチェック

ハクサイ、キャベツ、ブロッコリーなどのアブラナ科野菜は、アオムシやヨトウムシ、コナガなどの害虫に注意しましょう。

葉に穴が開いていないか確認するだけでなく、葉の裏側や株の中心部分までよく観察することが大切です。幼虫が小さいうちの発見は、農薬も効きやすく対策もしやすいです。また、害虫による被害が多くなると、葉が傷ついて生育が遅れることがあります。被害が広がる前に早めに対処しましょう。



※農薬を使用する場合は、作物に登録のある農薬を選び、ラベルに記載された使用方法・使用時期・使用回数を必ず守ってください。

●病気を防ぐには畑をきれいに

秋冬野菜では、べト病や黒斑病などの病気にも注意が必要です。

病気の発生を抑えるためには、①株を込み合わせない、②水はけを良くする、③葉を濡らし続けない、④病気になる葉や残渣を放置しない、といった管理が重要です。

収穫が終わった野菜の残渣も、病害虫の発生源になることがあります。病気や害虫の被害が見られる場合は、畑に残さないようにしましょう。



●10月におすすめの野菜

種まき・・・ダイコン、カブ、ホウレンソウ、コマツナ、シュンギク、ニンジンなど
苗の定植・・・ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、レタスなど



ときめき ♡ 女性部通信

女性も質問しやすい講習会

J A 女性部呉地区本部下島支部は8月7日、J A 蒲刈アグリセンターと協力し呉市下蒲刈町にある柑橘園地で摘果講習会を開き、部員7人が参加しました。

J A は地区ごとに毎月末、月作業を中心とした柑橘栽培講習会を行っています。朝早い時間の講習会は女性が参加しにくいとの声や、高い技術を持った生産者と一緒に講習会では質問がづらいとの声を受け、それとは別に女性のみが参加できる講習会をということで開催しました。

講習会は J A 広島果実連(株)の西村涼太郎技師を講師に、部員の管理する園地で果実の肥大や高品質な果実の生産を目的としたこの時期に行う温州ミカンの「粗もぎ摘果」と中晩柑の「仕上げ摘果」を行いました。

参加した同支部の金原康江支部長は「今回教えていただいた事を実践し、秋には高品質な果実が収穫できたと笑えるように頑張りましょう」と呼びかけました。



▲園地で講習する西村技師

虫除けトンボ作成会



▲毎月開催されている読書会



▲部員で教え合いながら作りました

J A 女性部呉地区本部大古支部は8月25日、J A 大古支店で毎月の読書会と併せて虫除けトンボづくりを行いました。虫除けトンボはトンボを模した模型で、帽子やリュックに付けるだけで蚊やハエなどの虫が寄りづらくなります。黒いストローに黄色いテープを貼った胴体、透明なプラスチック板にマジックで模様を描いた羽、ビーズで作った目、針金を取り付けて完成です。重松鈴子支部長は「せっかく毎月集まっているのだから、読書会と併せていろいろな事を行っていききたい」と話しました。